施工説明書

2018.10

TOTO

住宅用屋外手すり ストレートジョイント・フレキシブルジョイント・エンドキャップ

TS139E 型
TS139FJ型
TS139J 型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

施工の際には、手すりに同梱の施工説明書を必ずお読みください。

1 安全上の注意（安全のために必ずお守りください）

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

●この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表　示	意　味
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負うことが想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。
	は、必ず実行していただく「強制」内容です。　左図は、「必ず実行」を示します。

⚠ 警　告

禁止	**一般の住宅に取り付ける歩行補助手すり以外では使用しない** **転倒防止用ガードレールや防護柵、ベランダの柵、窓格子などや断崖地、転落のおそれのある場所などで使用しない** 重大事故につながるおそれがあります。	住宅用以外では使用しないでください。

⚠ 警　告

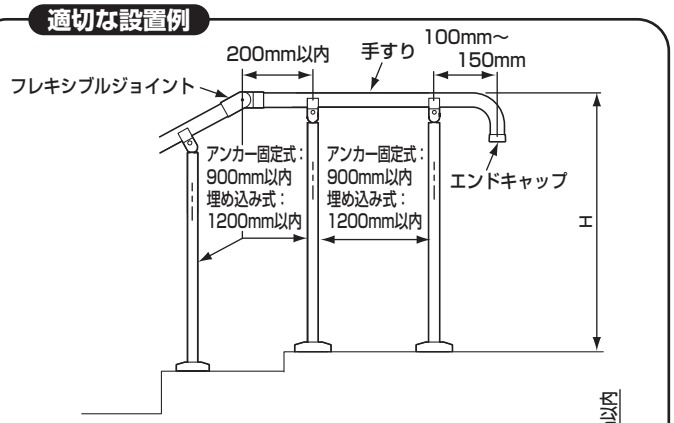
分解禁止	**修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない** 手すりの破損や脱落により、けがをするおそれがあります。	
必ず実行	**手すり・支柱およびブラケットなどは必ずTOTO住宅用屋外手すりを使用し、施工説明書どおりに取り付ける** 手すりの破損や脱落により、けがをするおそれがあります。	OK
	取り付け完了後、手すりにガタツキがないことを確認する 手すりにガタツキがあると、手すりが外れたり、取付面が壊れたりして、使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	ガタツキなし

⚠ 注　意

必ず実行	**商品を落とさない** 商品の破損や変形、傷付きが発生し、組み立てできないおそれがあります。	

2 取付方法の注意

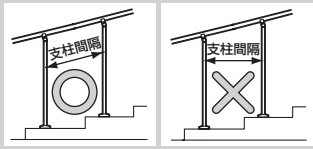
適切な設置例

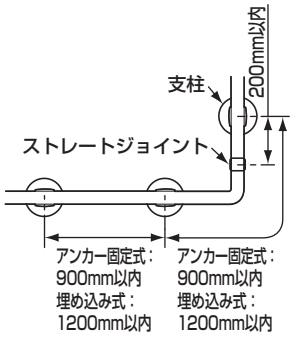


注 意

傾斜した手すりを設置する際の支柱またはブラケットの取付間隔は、傾斜寸法で測定してください。水平寸法で測定しないでください。

手すりが外れたり、取付面が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。

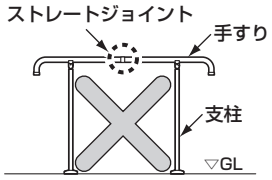




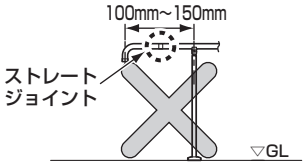
※壁固定とアンカー固定が混在する部分のブラケットと支柱の間隔は900mm以内としてください。
※アンカー固定と埋め込み固定が混在する部分の支柱の間隔は900mm以内としてください。
※標準的な高さHは750mm程度ですが、使用者が特定できる場合は、その方の使いやすさにあわせて取付位置を決定してください。

不適切な設置例

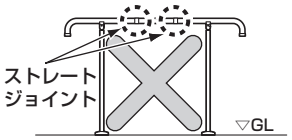
●2本の支柱または、2個のブラケットの場合、ストレートジョイントまたはフレキシブルジョイントは使用しないでください。



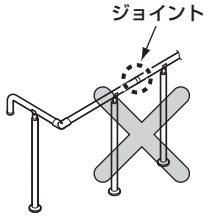
●ストレートジョイントは100mm～150mmであっても端部に使用しないでください。必ず支柱間のみまたは、ブラケット間のみで使用してください。



●支柱間またはブラケット間に、2個以上のストレートジョイントまたはフレキシブルジョイントは設置しないでください。



●入り隅・出隅にフレキシブルジョイントを使用する場合は、フレキシブルジョイントの少なくとも片側には、2本の支柱またはブラケットを設け、この支柱間またはブラケット間にはジョイントを設けないでください。

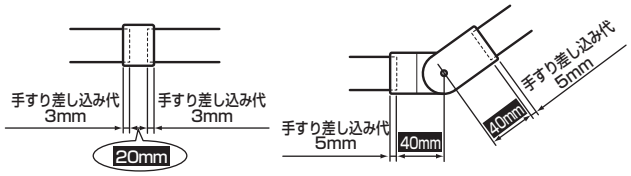


裏面へつづく

3-1 手すりの組み立て

1. 手すりの長さの算出

手すりの長さを算出する場合、ジョイントの長さ(下図 白ヌキ寸法 参照)を差し引いて算出する。



2. 接続部の組み立て

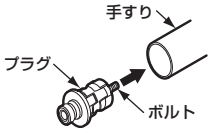
ストレートジョイントまたはフレキシブルジョイントと手すりの接続

①手すりの内側と外側のバリをヤスリか面取り器できれいに取り除く。

②プラグを手すりの内側に差し込む。

注 意

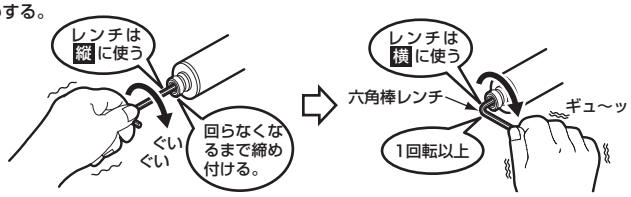
手すりとプラグは、すき間がないように差し込んでください。



2. 接続部の組み立て（つづき）

ストレートジョイントまたはフレキシブルジョイントと手すりの接続(つづき)

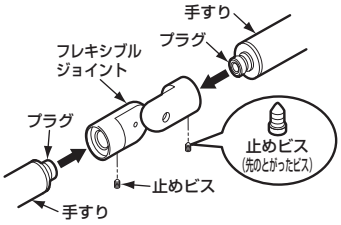
③ボルトは、まず六角棒レンチ(呼び寸法5)を縦使いにして回らなくなるまで締め付け、次に横使いにして1回転以上増し締めする。



④ストレートジョイントまたは、フレキシブルジョイントにプラグを差し込む。

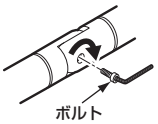
注 意

プラグは奥に突き当たるまで入っていることを確認してください。奥まで入っていないと、止めビスがプラグの溝にかからず、手すりが外れてけがをするおそれがあります。



⑤止めビスは、まず六角棒レンチ(呼び寸法3)を縦使いにして回らなくなるまで締め付け、次に横使いにして1/4回転以上増し締めする。

⑥側面のボルトは、⑤と同じ要領にて締め付ける。
ストレートジョイントには、側面のボルトはありません。



注 意

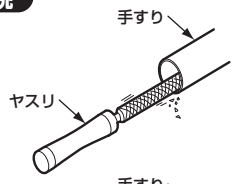
- **本固定は全体を設置後に行ってください。**
- **手すりの全長が長い場合、支柱またはブラケットを取付面に取り付け後、ジョイントを接続してください。**
- **止めビス、およびボルトはビス頭に雨水がたまらないように下側を向くようにしてください。**

3-2

2. 接続部の組み立て（つづき）

エンドキャップと手すりの接続

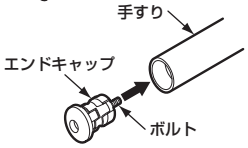
①手すりの内側と外側のバリをヤスリか面取り器できれいに取り除く。



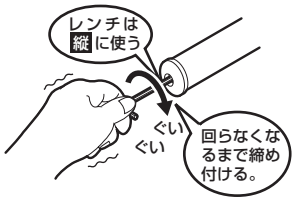
②エンドキャップを手すりの内側に差し込む。

注 意

手すりとエンドキャップは、すき間がないように差し込んでください。

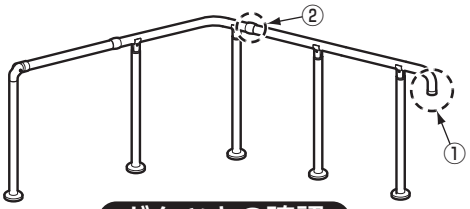


③ボルトは、まず六角棒レンチ(呼び寸法5)を縦使いにして回らなくなるまで締め付け、次に横使いにして1回転以上増し締めする。



4 点検項目

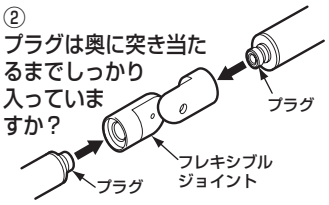
取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。



ガタツキの確認

手すりにガタツキがないか確認してください。

接続部はしっかり組み立てていますか？

部位	説明書参照項目
① エンドキャップボルトはしっかり締めていますか？	3 「手すりの組み立て」参照
② プラグは奥に突き当たるまでしっかり入っていますか？ 	
② 接続金具ボルト、止めビスはしっかり締めていますか？	